

## 製品名: Fhit ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab10957

研究使用のみ

### 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

### 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	16kDa

### 抗原情報

遺伝子名	FHIT
別名	FHIT; Bis(5'-adenosyl)-triphosphatase; AP3A hydrolase; AP3Aase; Diadenosine 5'; 5'''-P1,P3-triphosphate hydrolase; Dinucleosidetriphosphatase; Fragile histidine triad protein
遺伝子 ID	2272.0
SwissProt ID	P49789
免疫原	抗血清はヒト FHIT 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

### 背景

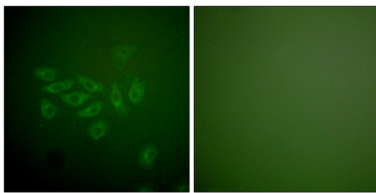
この遺伝子はヒスチジントライアド遺伝子ファミリーの一員であり、プリン代謝に関与するジアデノシン 5',5'''-P1,P3-三リン酸加水

分解酵素をコードする。この遺伝子は、3番染色体上の共通脆弱部位 FRA3B を包含しており、発がん物質誘発性の損傷により、この遺伝子の転座および異常転写産物が生じる可能性がある。実際、この遺伝子の異常転写産物は、食道癌、胃癌、および結腸癌の約半数で見ついている。この遺伝子には、選択的スプライシングによる転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009年10月]、触媒活性: P(1)-P(3)-ビス(5'-アデノシル)三リン酸 + H(2)O = ADP + AMP、補因子: 二価陽イオン。マグネシウムが代替となるが、マンガン、および程度は低いもののカルシウムやコバルトも代替可能である。亜鉛、カドミウム、ニッケルには含まれません。、疾患: FHIT に関連する染色体異常は、早期発症の両側性および多巣性明細胞腎癌 [MIM:144700] で観察されます。転座 t(3;8) (3p14.2)。、疾患: 消化管癌に関連しています。脆弱部位遺伝子座 FRA3B を含む染色体 3p14.2 のコード領域の欠失により、多くの腫瘍型で異常な FHIT タンパク質が見つかっています。、機能: A-5'-PPP-5'A を切断して AMP と ADP を生成します。特定の組織の腫瘍抑制因子である可能性があります。、質量分析: PubMed: 15007172、類似性: 1つの HIT ドメインを含みます。、サブユニット: ホモ二量体。、組織特異性: 検査したすべての組織で低レベルの発現が見られました。リン酸化 FHIT は肝臓と腎臓で観察されたが、脳と肺では観察されなかった。試験した全てのヒト腫瘍細胞株において、リン酸化 FHIT は検出されなかった。

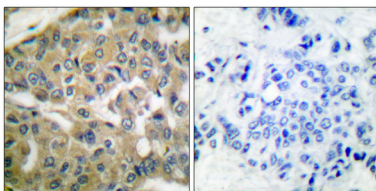
## 研究分野

プリン代謝;小細胞肺癌;非小細胞肺癌;

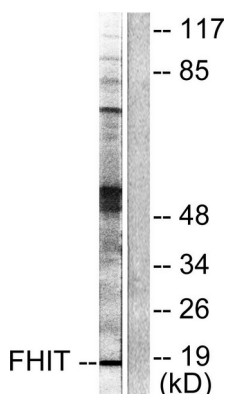
## 画像データ



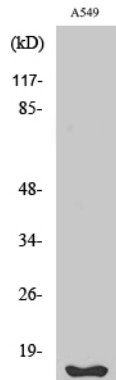
FHIT 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



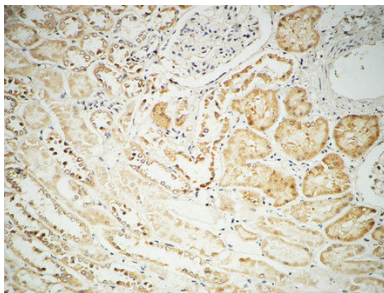
FHIT 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



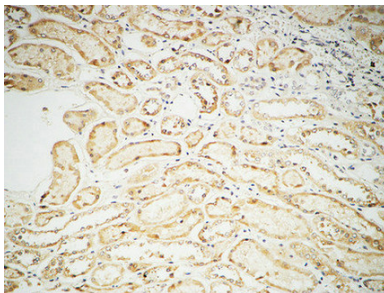
FHIT 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



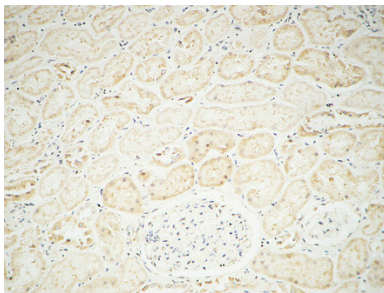
### Fhit ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。